

## 第2部 成熟するアジアと世界へむかうヨーロッパ

### 第3章 大西洋世界の変容とその波及

#### 3節 ヨーロッパの動乱の波及

##### ① ラテンアメリカ諸国の独立 (教科書 p. 92~93)

#### ■ポイント

- ①ヨーロッパの動乱は、ラテンアメリカにどのような影響を与えたのだろうか。
- ②ラテンアメリカの独立はアメリカ合衆国にどのような影響を与えたのだろうか。

#### ハイチの独立 [p.92]

仏領 [ ] の反乱 (1791) …砂糖生産で繁栄  
[ ] の指導で黒人奴隷が反乱

#### 経過

フランス国民公会が奴隷制廃止宣言 (1794)  
→ナポレオンが植民地に奴隷制復活 (1802)  
→ナポレオンの遠征軍に抵抗  
→ [ ] の独立宣言 (1804)

#### 奴隷貿易廃止へ [p.92]

#### 奴隷制批判の動き

← [ ], キリスト教人道主義の影響

#### サン・ドマングの反乱の衝撃

→イギリス議会, アメリカ合衆国が奴隷貿易禁止  
(しかし, 奴隷制そのものは廃止されず)

#### ラテンアメリカの独立運動 [p.92]

要因…ナポレオンのポルトガル, スペイン本国支配

独立運動…1830年代までに多くの地域が独立

- ・ [ ] (植民地生まれの白人) が中心
- ・ シモン・ボリバル… [ ] など北部諸国の独立を指導
- ・ サン・マルティン…アルゼンチンなど南部諸国の独立を指導
- ・ ポルトガルから [ ] 独立 (1822)

#### 独立後の問題点

- ・ [ ] の利害優先…大土地所有がのこる
- ・ カウディーリョ (軍人などの地方有力者) の台頭

#### アメリカ合衆国の拡大 [p.93]

ナポレオンからルイジアナ購入 (1803)

→ [ ] 川以西にフロンティアが拡大

ナポレオン戦争中の対仏貿易禁止を求めるイギリスと対立

→ [ ] 戦争 (1812~14)

→合衆国の国民意識を高め, 国の基盤を強化

[ ] 宣言 (1823) …ラテンアメリカへのヨーロッパ諸国の干渉排除

→合衆国の外交政策の基調 (のちのパン・アメリカ主義へ)